

ベストピア Bestopia

小原靖夫

ベストピアは小原靖夫の
個人誌です。

平成二十四年一月
第二九九号

年賀状

今年の年賀状は、3頁目に掲載しました。不思議な英文ですが、私の思いをこめたものです。少し解説を加えます。

Free from Everything

昨年末に最後の職業であった税理士の資格を抹消して廃業しました。あらゆることから自由になりたかったからです。人間が社会的存在であることは頭では解っているのですが、わがまま、アマノジャクの性格、的確に言えば、自己中心性の故に人間関係を良好的に継続することは生来苦手でした。どんな時もどうしたら「自由になれるか」という意識が生活のベースにありました。

そのお陰で「精神なき専門人」にならずに、多忙と戦い、時間を生み出し、時々「したいことをする」生活をしてきました。税法以外に、

①人と組織を結ぶ賃金の役割、

②なぜ人は嫌なことが分かっているのに同じような嫌なことを繰り返すのか、性懲りもなく行うのか(ゲームの理論)を心理学的に研究し、組織と人とが繰り返すゲームの根拠を著作にしたり、

③そうした人間の心のカラクリを文明の発祥地メソポタミアのシュメール文明に遡って研究をしました。

④大学の卒論の延長線上で「偶像崇拜の終焉」という小論文も書き岩波書店から出版してもらい、いくつかの大学の図書館に納めました。

⑤坂村真民先生との出会いによって仏教

の側面からみたキリスト教も学びました。

⑥世界宗教の争いをストップしたいと願い、エルサレムに「平和を願う〈念ずれば花ひらく〉303番碑の建碑と植樹運動を多くの方々にご支援頂いて、ヘブライ大学植物園に寄贈しました。

⑦よく旅をしました。40代は北アメリカ大陸を東西南北縦横に、50代はイスラエルを中心に中近東、60代はユーロ圏とその周辺、お陰で絵画と音楽は常識レベルになりました。

⑧本も十数冊書きました。全国で講演もさせて頂きました。

⑨第九の学習で新しい道も開けました。

このようにふらっと振り返るだけでも一般の会計人には羨ましがられる程の自由さのある生活をしてきましたが、常に税法という重い鎧をまとっての自由さで、心のどこかに桎梏を背負っていました。

経験の体系化もできておらず、一箇所「穴を突つき」又一箇所「穴を突つき」統合されない体験に空虚感を味わっていました。生のベースには聖書がありましたので空虚感にも意味を問う姿勢はもっていましたが、感性の納得感には至りませんでした。

必要なのは時間、時間論を学べば学ぶほど、なにものにも縛られない時間への希求が増していきました。

生活の不安は、こんな時代ですから誰にでも公平にあります。

それ以上に欲しいものが、この世の誰にも、なにものにも遠慮することのない自分の時間でした。そんな状況で出てきた言葉が、Free from Everything です。

Everything is Nothing. Nothing is Everything.

(1) この言葉は 20 年程前に般若心経を学んだことがあり、全体の意味は今でも分かってはいませんが、英訳するとどうなるのかという問を持ち続けていました。いくつかの英訳も入手しましたが、どれも難しく私の頭ではついていけないと思い諦めました。そんな時に、冬の北海道にいき、白一色の銀世界を前に無限の広がりと深さを感じた瞬間に何も無い世界を同時に感じたのです。その時、「白と言うのは幾つなのか」理性的な質問が頭をよぎりました。数字(計算と言った方が適切)の世界に生きている性がでるのですね。哀しかったですが頓智の世界です。

(2) 何も無いから零、感じは無限大、零の連続は無限大、無限大は書き表すことはできないから記号とした「零・零」－「0・0」－ ∞ となるのだな～

(3) 白寿と言う言葉も有る。なぜ 99 歳なのか？これも頓智の世界、 $100-1=99$ 、百の一角をとると白になる。

白髪三千畳と言う言葉も有った。広大にして無限という意味なんだろう等、私流の好い加減な思考プロセス、然し、何かが生まれるということもしばしばある。捨てたものではない。こんな屁理屈にも感性は負けず、私の中では白のイメージは無限大＝零が浮かび上がり消えませんでした。

(4) 「なんでもあるということは、なににもないことである」

「なににもないということは、なんでもあるということ」

歳を重ねる毎に意味は変わり、深くなります。

今、ビジネスの世界を捨てて、なんだか無限の自由を得たような気分です。ビジネスの世界は何らかの形で「お金」がからみ、

主従がからみます。その制約から解放された新しい年にウキウキしています。

(5) 然し、世界情勢は「一日にして有を無にする」状況です。米 100 グラムが 10 万円となるのは一日かかりません。仕事を持つ人にはそのリスクに脅える必要はありませんが、仕事をもたない高齢者、私のような者は、生活保護者になります。それも又、楽しからずやと思える覚悟が今は必要です。

(6) Everything～Nothing の過程で意識的にしなければならないことがあります。整理です。即ち、捨てること。捨てることを覚悟すること。覚悟したら振り向かないこと。この振り向かないということはかなり難しいです。

人間の執着心は簡単には整理できません。旧約聖書にも「ロトの妻」の有名な物語もモーセに導かれながらも不平を言いながら後ろを振り返る物語もあるくらい古来から「後ろを振り返る」のが人の性なのかも知れません。

私も年末の大整理に時間がかかりました。妻の基準は「今まで使っていない物は捨てる、迷ったら捨てる」と明確です。私は「迷ったら取っておく」のですが、これは整理ではなく単なる「置き換え」にすぎません。これは整理の先延ばし、かくして段ボール箱 10 杯分が自宅に置き換えられ、その整理が新年の仕事始めになりました。整理には集中力が要ります。(次号へ)

小原 靖夫

厳しい年になりますが、皆様のご健勝にてのご活躍をお祈りいたします。

私は昨年末に最後の職業であった税理士の登録を抹消し、あこがれの自由人となり、身も心も新たな出発の年を迎えました。

与えられるままに与えられることを為させて頂く人生の玄冬です。

若いときの躍動感はありませんが、次のような英文を作って、名刺の裏に印刷しました。

ffe

*free from everything
everything is nothing
nothing is everything*

有用性としての価値はなくなりましたので、「存在としての価値」の世界で生き、目指すものをしっかり見据えて生きます。若い方の為の FFE は別の意味を考えました。

Young is required fight for everything

です。夢に向かって邁進してください。
それぞれの人生の四季に咲く花を目指して！
ご健勝をお祈りします。

☎ 250-0117 神奈川県南足柄市塚原4360-11

ホームページ www.bestopia.jp

Eメール y.ohara@bestopia.ne.jp

小原靖夫